薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・

２０１９年
７月２４日
第６９号

エンジュ（マメ科）

園内ではないのですが、学内の共同利用研究施設棟の横の高木に、乳白色の花が咲き始めそうです。花が散ると地面がまっ黄色の花で覆われ、何かと見上げるのですが、今はなかなか目にしません。中国原産で薬用として日本に入りました。渡来した年代ははっきり解りませんが、古く仏教伝来の頃（飛鳥時代）とも言われています。花蕾を生薬「塊花（かいか）」の原料とし、民間療法で、歯ぐきや舌からの出血に対して用います。また、果実を塊角（かいかく）といい、乾燥させ痔疾に内服、枝葉は煎じて湿疹に外用します。中医学では花蕾を涼血止血を目的に使用します。また、中国では黄色の染料として使われ、これで紙を染めたものを黄紙と言うそうです。花蕾はルチンの含量が高く、その抽出原料に用いられます。ルチンは黄色の食品添加物として使用されています。

ヨウシュヤマゴボウ（ヤマゴボウ科）

園内、第三圃場奥、山崎川沿いのフェンスの前で花が見られます。北米原産で、明治間に薬用を目的に導入され、野生化して、各地の空き地、道端に見られます。外国から来たので「洋種」と名づけられました。茎が太く鮮やかな赤紫色でよく目立ち、葉も秋に紅葉します。全草に有毒成分（フィトラカトキシン）を含みます。実を英名でインクベリーと呼び、インクの着色に使用されましたが、有毒ために現在では使用禁止です。服や指に着くと色が落ちにくく、口に含むと腹痛、下痢、けいれんを起こします。さらに、根茎にはレクチンの一種、pokeweed mitogen (PWM、 pokeweedはこの植物の英名)を含み、発がん性があります。近縁種のヤマゴボウは、根を生薬「商陸（しょうりく）」の原料とし、利尿薬として使用されていましたが、その毒性のために現在では使用されません。